

# 北海道大学 URAステーションの取り組み - 約2年を振り返って

北海道大学

## 要旨

本学がURA事業に採択されURAステーションが設置されてから、約2年を迎える。当初想定されていたとおりのこと、状況の変化、設置後に直面した課題、それらにどう対応しようとしているのか…。アンケートとディスカッションで、URAステーションの中の人々のホンネに迫りつつ、URAステーションの活動・取り組みの現状を紹介する。

## 方法

本学URA6名（男性3名、女性3名。平均年齢 40.8歳（34～43歳）、URA就業年数 平均1.5年（7か月～1年11ヶ月））が、URA「着任前に各自想定していた業務を自由にリストアップした（図1:黄色付箋）。それら各項目（A-1～D-7）について、現在、URAステーションの業務として

- A. 「行っていること」
- B. 「行っていないこと（URAステーションの業務としてアサインされないこと）」
- C. 「行えていないこと（URAステーションの業務範囲内であるが…）」
- D. 「行えていないこと（URAステーションでは業務外とされるが、北大URAとして我々がやるべきと考えること）」

の4グループに分類した。さらに、C. およびD. に分類された各項目について、なぜ「できていない」のか、理由づけを行った（図1、黄緑色付箋）。以上のことから、本学におけるURA業務の課題のあぶり出しを行った。

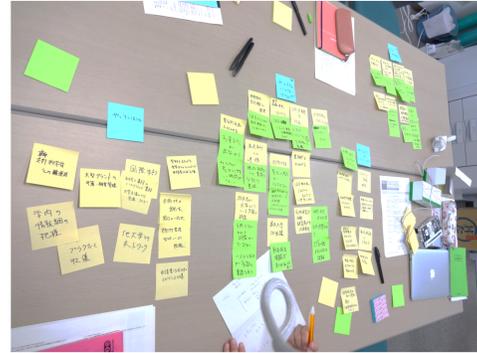


図1. 各項目のリストアップ。URAステーション内のミーティングスペースにて、対象URAが各自自由に黄色付箋に記載した。事前に机上をA～Dの4グループ（青色付箋）に分け、各黄色付箋を各グループのスペースに貼付した。理由項目（黄緑色付箋）も同様に記載、貼付した。

## 結果

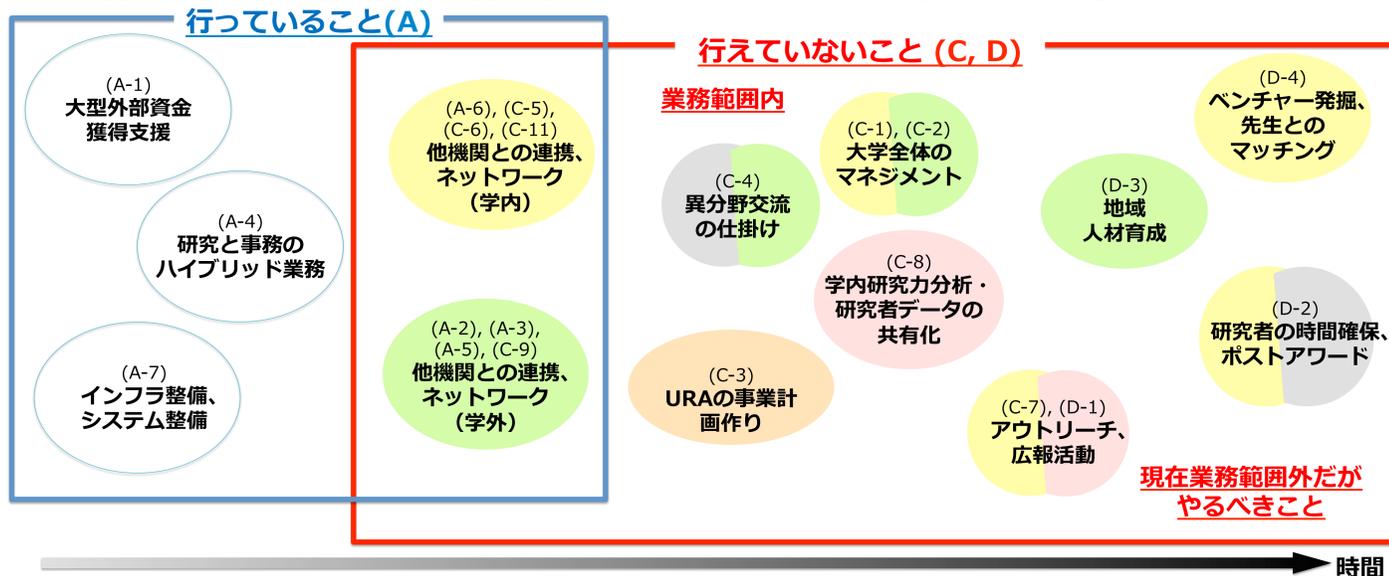
- A. 「行っていること」としては、以下の8項目（A-1～A-8）が列挙された。**
- (A-1) 大型グラントの予算・研究管理、申請書作成支援（含・申請書作成時のエビデンス収集）
  - (A-2) 文部科学省との連携
  - (A-3) 国際本部との連携
  - (A-4) 研究と事務のハイブリッド業務（大学主催のWS企画・運営）
  - (A-5) 学内情報網の把握
  - (A-6) 他大学とのネットワーク
  - (A-7) 分析機器の共用化、窓口の一元化、共用機器管理センターの改組
  - (A-8) プラクティス収集
- C. 「行えていないこと（URAステーションの業務範囲内）」は、以下の11項目であった（C-1～C-11）。理由は、緑字で示した。**
- (C-1) 研究担当理事のマネジメント  
→ 教員職でも事務職でもないURA職の位置づけがまだ明確でないから … (c-1)
  - (C-2) 大学全体のマネジメント  
→ 大学の組織が縦割りだから。… (c-2)
  - (C-3) URA事業の計画  
→ URAステーションの組織が未整備だから。… (c-3)
  - (C-4) 異分野交流を仕掛ける  
→ お菓子代が出ないから。… (c-4-1)  
→ 全学の教員が参加しやすい時間がないから。… (c-4-2)
  - (C-5) 学内事務との連携  
→ URAと協働する事務職員が専任で配置されていないから。… (c-5)
  - (C-6) 産連本部との連携  
→ 既存組織との業務の分担整理ができていないから。… (c-6)
  - (C-7) 国際広報  
→ 責任の所在がはっきりしない（学内体制が整っていない）から。… (c-7)
  - (C-8) 学内研究力分析・研究者データの共有化  
→ 時間と手間がかかるから（学内調整が必要）。… (c-8-1)  
→ IT知識・データについての理解が乏しいから。… (c-8-2)
  - (C-9) 道内大学との連携  
→ 具体的な課題を見つけれないから。… (c-9)
  - (C-10) 研究者が必要としている支援の調査  
→ 手間ヒマがかかり（1人のURAが多数の業務をかねもっているため）、調査ができないから。… (c-10)
  - (C-11) URA類似職（部局URA）の方たちとのネットワーク。  
→ 全学の部局とはまだあまりコミュニケーションがとれていない。
- B. 「行っていないこと（URAステーションの業務としてアサインされないこと）」には、以下の、B-1～B-8の8項目が挙げられた。**
- (B-1) URAの育成・確保（注：URA事業に含まれるので部分的に実施）
  - (B-2) 研究者個人のサポート（含：科研費申請書の添削・アドバイス）
  - (B-3) 学生・院生をアウトリーチに参加させる取組
  - (B-4) 学生の保護者（保証人）を巻き込んだ取組（ネットワーク作りなど）
  - (B-5) 地域との交流
  - (B-6) 教育・人材育成関連業務（含：留学生のキャリアパスサポート）
  - (B-7) 海外研究者のリクルート
  - (B-8) 国際関連のサポート業務の集約（国際本部が取り組もうとしていた）
- D. 「行えていないこと（本学URAステーションでは業務外と想定されるが、北大URAとして我々がやるべきと考えること）」は、以下の、D-1～D-7の7項目であった。それぞれの理由について、緑字で示した。**
- (D-1) アウトリーチ、広報活動  
→ 手間ヒマがかかり（1人のURAが多数の業務をかねもっているため）、調査ができないから。… (d-1)
  - (D-2) 研究者の時間確保の制度整備（含・ポストアワード業務）  
→ 資金不足。… (d-2-1)  
→ 部局のことはなかなかやりにくい（部局の意思で決定、判断されている）から。… (d-2-2)  
→ 研究にとどまる問題ではないから。… (d-2-3)
  - (D-3) 地域の大学支援者の育成  
→ 大学として地域連携ポリシーがないから。… (d-3)
  - (D-4) おもしろいベンチャー会社発見、研究者とのマッチングを産連よりもう少しきめ細かく。  
→ 従来の産学連携本部の取組みもあり、なんとなく気を遣うから。… (d-4)
  - (D-5) 英語を使うきわめて実務的な仕事（海外の外部資金獲得に係る事務的支援、英文契約など）
  - (D-6) 地味だけど良いものをもっている先生を発掘して、スターにする
  - (D-7) 学内の研究支援者のネットワーク作り（特に国際担当）

## 考察

得られた結果より、C、Dの各項目が「行えていない」理由は、以下①～⑤の5項目に集約できると考えられた。

- (c-1), (c-4-2), (c-7), (c-9), (d-2-3), (d-3) … ①大学組織・運営上の問題
- (c-2), (c-5), (c-6), (c-11), (d-2-2), (d-4) … ②学内既存組織との関係
- (c-3) … ③URA組織上の問題
- (c-8-1), (c-8-2), (c-10), (d-1), (c-4-1), (d-2-1) … ④URAの人材・人手不足
- … ⑤資金不足

北大URAの「過去、現在、未来」を考える上で必要と思われるA、C、Dの各項目について、下に図示した。



なにかよい課題解決のアイデアなどございましたら、こちらのスペースに付箋貼付の上、ご自由にご記載いただくと幸いです。  
(付箋はこちら)

